

ビジネスに価値ある答えを提供する “パーベイシブ・データ・インテリジェンス”の世界

パーベイシブ・データ・インテリジェンス - 空気のように存在するデータを 呼吸するように分析し、答えを得る

パーベイシブ・データ・インテリジェンス - おそらく大半の日本人にとって、日常的に聞く機会がほとんどない英単語の組み合わせかもしれません。しかしこの言葉には、いまや世界中のあらゆる企業が避けて通れない“データ”へのアプローチにおける重要な概念が込められています。魚にとっての水のように、地上に生きる我々にとっての空気のように、存在があたりまえすぎて、その重要性をともしれば見落としてしまうほどに満ちあふれている状態を英語では“pervasive (パーベイシブ)”と表現します。そして、現代の企業にとってデータとはまさに水や空気と同じように、意識せずともそこにある“パーベイシブ”な存在だといえるでしょう。

しかしデータは水や空気と違い、そのままの状態、いわゆるローデータ (raw data) と呼ばれる未加工のデータでは、ビジネスに資することはほとんどありません。データを活用するには分析 (analytics) というプロセスが欠かせず、また、分析するためには必要なデータを抽出し、適切なフォーマットに整形する前処理が求められます。さらに、より正確な分析結果を得るためには精度の高い分析モデルの構築や、フレームワークなど分析環境の整備も必要となります。データはパーベイシブな存在であったとしても、アナリティクスはパーベイシブとはほど遠い状況にある - これが多いの企業にとっての現実ではないでしょうか。

ビジネスにおけるアナリティクスの複雑さは、一般消費者の世界と比べるとより顕著です。レストランを検索するとき、ライトを点灯するとき、あるいは自動車を運転していて渋滞を回避したいとき、ユーザーはほんの数ワードをスマートフォンやスマートスピーカーに話しかける(あるいは入力する)だけで、その場ですぐに必要な回答を得ることができます。複雑な手続きは不要です。しかしビジネスの世界ではこうはいきません。ビジネスで成功するためのアクションにつながる「答え」をデータから引き出すために、複数のアナリティクスチームを構成し、チーム間の調整や承認作業を繰り返し、何カ月もの作業工程を経て…といった光景が見られることも少なくありません。またアナリティクスのプロセスや技術が複雑すぎて、専門スキルをもつデータサイエンティストたち以外はデータに触れない、といった話もよく聞かれます。


テラデータが世界中の企業260社を対象に行った2018年の調査によれば、回答者の74%が「データアナリティクスに投資をしているが、現在のアナリティクス技術は複雑すぎる」と答えており、さらに81%のシニアビジネスリーダーは「アナリティクスを全社的に普及させる」ことを望んでいるという結果を得ました。空気のように存在するデータを、空気を吸うように分析し、息を吐くようにビジネスに価値ある「答え」を得る - 呼吸という無意識下で行われるシンプルなプロセスが生命活動を維持しているように、アナリティクスをビジネスという企業の生命活動を支えるシンプルでパーベイシブなプロセスへと変えていく、それが、テラデータが実現しようとしている“パーベイシブ・データ・インテリジェンス”の世界です。


パーベイシブ・データ・インテリジェンスの ゴールと特徴

ビジネスリーダーの方々に是非ご理解いただきたいのは、先にも触れたとおり、データはそれ単体ではビジネスにおいては意味をなさず、データがあるだけでは不十分である、ということです。ローデータはツールやフレームワークを使うことで、処理/可視化し、その意味することを読み取ることが可能となります。ただしこの一連の作業、すなわちアナリティクスというプロセスもまた、データが示す結果を得るまでの手段に過ぎないのです。データもアナリティクスも企業にとってはゴールではなく、ビジネスに資するインテリジェンス、つまりビジネスに価値をもたらす「答え」を獲得することこそが究極のゴールなのです。

このゴールに辿り着くために - アナリティクスというプロセスをパーベイシブにし、アナリティクスから得られるインテリジェンスをもパーベイシブな状態にするために、データは「スケーラブル(拡張性)」「フリクションレス(無摩擦性)」「オムニプレゼント(遍在性)」という3つの特徴を備えている必要があります。

🔗 スケーラブル(拡張性): どんなにデータが増え続けようとも、そのすべてをいつでも参照できる状態にしておくことは、アナリティクスをスムーズかつ効率的に自動化する上で非常に重要です。このような環境は競合他社との重要な差別化要因となり、またさまざまな脅威からビジネスを防御する最前線ともなります。変化のスピードが速く、複雑化する一方の市場で勝ち残っていくには、ビジネスを全体的に俯瞰する視点が欠かせません。そしてこの視点を得るためには、データをスケーラブルな状態にしておく必要があるのです。

 **フリクションレス(無摩擦性):** ビジネスの現場で毎日行われる意思決定において、データは大きな影響を及ぼします。こうした日々の意思決定に影響するデータへのアクセスを、現場の社員に対してシームレスに提供する必要があります。その結果、部門間の壁を超えたイノベーションが社内のおちこちで迅速に、かつ効果的に起こるようになります。

 **オムニプレゼント(遍在性):** パーベイシブなデータとは "眠らないデータ" だといえます。そのデータがどこにあるとも必要なときにはいつでも入手することができ、しかもリアルタイムに獲得できる必要があります。

これら3つの特徴を実現することができれば、企業は自社のビジネスの顧客の行動、そしてマーケットトレンド(市場動向)の全体像を掴み、正確な意思決定を下すことが可能となります。

企業におけるインパクト

今日の企業において、ほぼすべての従業員にとって、データは重要な役割を担っています。パーベイシブなデータ環境が構築されている組織や企業であれば、そこに所属する従業員は全員、広いビジネス視野に立ったインテリジェンスを獲得し、それを実行に移すことが可能となります。

ここでいくつか例を挙げてみましょう。たとえば**データサイエンティスト**の場合、パーベイシブなデータ環境は彼らにどんな恩恵をもたらすのでしょうか。データサイエンティストの仕事とは、企業にとって最も重要なビジネス上の課題を解決するために、最善となるアナリティクスを設計、実行することです。しかしデータへのアクセスが面倒だったり、分析用のデータを用意するのに時間がかかってしまうような環境であれば、データサイエンティストは完全なデータセットを使った分析ではなく、サンプリング(標本抽出)に労力を取られてしまうこととなります。逆に、スケーラブル、フリクションレス、オムニプレゼントという3つの特徴をクリアしているデータ環境であれば、データサイエンティストはその企業が保有するすべてのデータを使ってリアルタイムなアナリティクスを試すことができます。パーベイシブ・データ・インテリジェンスは、データサイエンティストがあらゆる事業部門に対し、包括的で競争力の高いインサイトを確実に提供できるようにしてくれます。

ビジネスアナリストの場合はどうでしょうか。彼らはビジネスプロセスを効率化し、IT環境の改善を促進するため、不要な業務やデータ移行、余剰人員などをできるだけ抑えるようにしなければなりません。フレキシブルな分析環境が、さまざまなユーザーのアナリティクスに対するニーズをサポートし、既存のデータウェアハウスのデータをソーシャルメディアやIoT、テキストなどから得られたデータと組み合わせ、リッチで新しいインサイトを得ることを可能にします。パーベイシブ・データ・インテリジェンスのシステム化は、ビジネスの成長、価値創造にかかる時間とコストの低減、そして最先端テクノロジーの取り込みをもたらしてくれます。

日本テラデータ株式会社 〒107-0052 東京都港区赤坂2-23-1 アークヒルズフロントタワー www.teradata.jp

TeradataおよびTeradataのロゴは、米国テラデータ・コーポレーションおよび/または関連会社の米国およびその他の各国における登録商標です。テラデータでは、新たなテクノロジーおよびコンポーネントの導入に合わせて製品を随時改良しています。本資料に掲載されている情報は予告なしに変更されることがあります。本書に記載された特徴、機能、および運用形態は、地域によっては販売されていない可能性があります。詳細については、テラデータ担当者にお問い合わせいただくか、Teradata.jpをご覧ください。

© 2019 Teradata Corporation All Rights Reserved. 02.19 EB10263



teradata.

最後に、**ビジネス意思決定者**の一例として**CMO(Chief Marketing Officer)**を挙げておきましょう。CMOは限られた予算の中で、ブランドの浸透と需要の創出を拡大していくことに責任を負います。パーベイシブ・データ・インテリジェンスは、プランニングの決定やマーケティング戦略の試行、逸脱度の測定といった分野でCMOをサポートし、複数のチャネルにおける継続的なカスタマーエクスペリエンス(顧客満足度)の向上を約束します。CMOはまた、最適なキャンペーンを模索し、競争優位性を獲得するために、市場動向や競合の動向に注意を払う必要があります。したがって常にリアルタイムかつ総合的にデータを参照できる環境が用意されていなくてはなりません。これを実現するのがパーベイシブ・データ・インテリジェンスであり、CMOはここから迅速でデータドリブンなインサイトを獲得できます。また顧客に対しても効率的で競争力の高い価値を提供することができるようになるでしょう。

自動化、そしてシームレスなデリバリーを通して、パーベイシブ・データ・インテリジェンスは適切なタイミングで重要な情報を届けます。そのプロセスは企業のすべてのプロフェッショナルがもつポテンシャルをフルに解放することにつながります。また、洗練された最先端のAI/マシンラーニング技術も加わることでパーベイシブ・データ・インテリジェンスはさらに強化され、"Artificial Intelligence(人工知能)"と人間の専門知識を融合した新たなテクノロジーである"Augmented Intelligence(拡張知能)"へとつながる道を拓いていくでしょう。

テラデータの役割

業界をリードするクラウド・アナリティクス・ソフトウェアとサービスを通じて、テラデータはお客様がパーベイシブ・データ・インテリジェンスを実現する環境を構築し、ビジネス上の価値ある答えを獲得することをお手伝いします。我々の理想は、日々、実現しつつあります。その理想とは、ライトを付けるように、あるいはスマートフォンのアプリを起動するように、必要なときに簡単にビジネスに必要なインテリジェンスが手に入る世界です。すべてのデータをいつでも参照できる環境を提供し、アナリティクスにおける複雑性を排除することで、データサイエンスをすべての人に提供すること、これが近い将来、企業が競争力を獲得、維持するために必要不可欠になると確信しています。

テラデータについて

テラデータのソフトウェアとサービスは、すべてのデータをいつでも活用できることを目的にしています。お客様はどんなデータも分析することができ、すべての環境に展開することができ、その結果をいかようにもデリバリーできるようになります。今日のアナリティクスが抱えるさまざまな課題 - 複雑さ、高いコスト、不十分な環境、リソース不足などに対するソリューションを提供し、テラデータはビジネスのあり方、人々の生き方をより良くしていきます。